

# ジョージア政治・経済 主な出来事

【2015年12月7日～2015年12月13日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成27年12月16日

在ジョージア大使館

## 1. 外 政

### ▼首相がブルガリアを訪問(7日)

・ガリバシヴィリ首相がクヴィリカシヴィリ外相およびダネリア農業相とともにブルガリアを訪問し、ブルガリアのプレヴネリエフ大統領、ボリスフ首相と会談。

・「ガ」首相と「ボ」ブルガリア首相は、輸送・貿易などに関する協力について議論し、EU・NATO加盟に向けた協力に関する覚書に署名した。また、両国の農業省の協力に関する覚書も署名された。

・「ク」外相はミトフ・ブルガリア外相と会談。ブルガリア側はジョージアのEU・NATO加盟のプロセスに対する支援の用意を表明した。

### ▼国防相の訪米(8日-11日)

・ヒダシェリ国防相が訪米。ヌーランド国務次官補、マケイン議員ら上下院議員、オルブライト前国務長官、米国際民主研究所所長、米国際民主研究所所長らと会談。

・「ヒ」国防相は、「ヌ」国務次官補との会談で2016年のワルシャワでのNATO首脳会議や2016年中に開始されるさまざまな新しい計画、黒海地域の安全保障などについて話し合ったとして、「我々はジョージアの安全を守るためのより容易で効率的な方法を模索している」と述べた。

### ▼露無人航空機・軍事ヘリコプターの侵入(9日-10日)

・ジョージア政府によれば、12月9日夕、ロシアの無人航空機が南オセチアからジョージア政府管理空域に侵入。また、翌10日昼には、Mi-8軍事ヘリコプターがジョージア政府管理空域に侵入し、ゴリ地区メレティ村の警察署の上空を飛行した。

・10日、ジョージア外務省は、ロシアの無人航空機および軍事ヘリコプターによるジョージア政府管理空域への侵入を挑発的な行動として非難する声明を発表。

### ▼大統領と外相がトルクメニスタンを訪問(11日-12日)

・トルクメニスタンの永世中立国化20周年を記念する国際会議に参加するため、マルグヴェラシヴィリ大統領とクヴィリカシヴィリ外相がトルクメニスタンを訪問。

・「マ」大統領はベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領、エルドアン・トルコ大統領、ガーニ・アフガニスタン大統領、ラフモン・タジキスタン大統領、アタムバエフ・キルギス大統領、ティモフティ・モルドバ大統領、李源朝・中国副主席、ジャハンギリ・イラン副大統領らと会談。

・「エ」トルコ大統領との会談では、バクー・トビリシ・カルス鉄道、東西輸送回廊の拡大、カスピ海のエネルギー

資源の輸送などに関する二国間・多国間協力について議論した。

・「ガ」アフガニスタン大統領は「マ」大統領に対し、ジョージアのResolute Support ミッションへの参加について感謝を述べた。

## 2. 内 政

### ▼統一国民運動事務所への銃撃(9日)

・9日夜、デドプリスツカロの統一国民運動（UNM）の事務所を何者が銃撃。20発以上が撃ち込まれた。銃撃の際に事務所は無人であった。

### ▼恩赦委員会に対する政治家からの圧力(9日)

・エリサシヴィリ前大統領恩赦委員会委員長（現トビリシ市議）が、与党連合「ジョージアの夢」の「有力政治家」から、ある受刑者の早期釈放を求めて不適切な圧力を受けたと告発。一部の政治家は特定の受刑者の恩赦を働きかける見返りに賄賂を受け取っていたとも述べた。コリゼ現恩赦委員会委員長（「エ」前委員長時代の委員）も、一部の政治家が受刑者の恩赦に対して「不健全な関心」を示したことが何度かあったと述べた。

・検察は捜査を開始。

### ▼人権保護官の報告書(10日)

・ナヌアシヴィリ人権保護官が報告書を発表。審理前勾留の濫用が選択的司法の兆候を示しているとして、9か月を越えて審理前勾留を受けていたウグラヴァ前トビリシ市長の訴えに対する憲法裁判所の判断を評価。ルスタヴィ2の言論の自由に対する裁判所の「不法な介入」を批判。

### ▼国会が小選挙区の変更に関する法改正の第一読を承認(12日)

・2015年5月に憲法裁判所が現行の小選挙区制について、選挙区ごとの有権者数の隔たりが選挙権の平等に反するとして違憲と判断したことを受け、与党連合が提出した小選挙区の区割りの変更の第一読を国会が承認。

・小選挙区制で選出されるのは73名。

・野党の大部分や市民グループなどは小選挙区制の廃止を求めている。与党連合は2016年の国会選挙後に小選挙区制を廃止する意向。

## 3. 経 済

### ▼2015年第3四半期の外国直接投資(9日)

・国家統計局の発表した速報値によれば、2015年第3四半期の外国直接投資は489百万ドル(前年同期比33%減、2015年第2四半期より38%増)。対外投資650百万ドル、

対内投資 161 百万ドル。

・国別の内訳は多い順にアゼルバイジャン 173 百万ドル、オランダ 55 百万ドル、トルコ 43 百万ドル、英国 41 百万ドル、中国 40 百万ドル、ルクセンブルグ 31 百万ドル、米国 14 百万ドル、チェコ 13 百万ドル、ロシア 9 百万ドル。

・2015 年 1 月～9 月の外国直接投資は 1,019 百万ドル（前年同期比 17%減）。対外投資 1,624 百万ドル、対内投資 605 百万ドル。

#### ▼IMF代表団の声明(9日)

・ジョージアを訪問していた IMF 代表団がジョージア経済に関する声明を発表。声明は「国立銀行がラリの変動を許容し、外貨市場への介入を限定的に行っていることを強く支持する」「2015 年には医療保険に対する歳出が予算を大きく超過した。2016 年には政府は歳出を厳しく監視せねばならない」と述べている。

#### ▼ジョージア・中国の自由貿易協定に関する交渉(10日)

・クムシシヴィリ経済・持続発展相と鐘山・中国商務部副部長が北京にてジョージアと中国が自由貿易協定に関する交渉を開始する覚書に署名。「ク」経済・持続的發展相は、「双方は交渉をできる限り早期に完了したいと考えている」「我々はジョージアワインと農産物に焦点を置いており、交渉が完了すれば、ジョージアワインの中国市場への参入に適した環境がつけられるだろう」と述べた。

・「ク」経済・持続的發展相はジョージア・中国政府間委員会会合にも出席。李金早・中国国家観光局長とも会談した。経済・持続的發展省によれば、会談で双方は中国人観光客のジョージアへの誘致の障害となる要因を調査する共同作業グループの設置について合意した。

#### ▼タバコ税、アルコール税の値上げ(11日)

・国会は 2016 年 1 月からのタバコ税およびアルコール税の値上げに関する法改正を承認。政府はこれらの措置による 9000 万ラリの歳入の増加を見込んでいる。政府の計画ではタバコ税は今後 8 年間にわたって段階的に引き上

げられる。

#### ▼国会が2016年予算を承認(11日)

・国会は賛成 83 票、反対 11 票で 2016 年予算を承認。歳入 8,550 百万ラリ（前年 8,048 百万ラリ）、歳出 8,540 百万ラリ（同 8,110 百万ラリ）。3%の経済成長を見込む。目標税収額は 7,980 百万ラリ。

・省ごとの内訳は、労働保険社会保障省 3,160 百万ラリ（前年 2,780 百万ラリ）、国防省 670 百万ラリ（同 667.3 百万ラリ）、内務省 595 百万ラリ（同 591.65 百万ラリ）、地方発展インフラ省 950 百万ラリ（同 869.5 百万ラリ）、教育科学省 975.19 百万ラリ（同 840.7 百万ラリ）、農業省 321.35 百万ラリ（同 262.45 百万ラリ）など。他に、国会 52 百万ラリ（同 46 百万ラリ）、中央選挙委員会 58.5 百万ラリ（同 22.5 百万ラリ）など。正教会には例年通り 25 百万ラリが交付される。

#### ▼中国からトルコへ向かう貨物列車の到着(13日)

・13 日、中国からイスタンブールへ向かう貨物列車が初めてジョージアに到着したことを記念する歓迎式典が行われた。ガリバシヴィリ首相は、「これは真に歴史的な日である」として、「シルクロードが活用されることにより、我が国は歴史的な使命を取り戻す」「シルクロード諸国の協力により、中国から欧州への貨物の輸送がより早く、より安くなる」「シルクロード・プロジェクトはジョージアを欧州とアジアを結ぶハブにする。これは、ジョージアをより魅力的な投資対象にする我々の実際的な政策の一部である」と挨拶した。

・11 月 29 日に中国東岸の連雲港で韓国産電化製品のコンテナ 21 個を積まれた貨物列車は、カザフスタンでフェリーに乗ってカスピ海を横断。アゼルバイジャンから再び列車によってジョージアに到着した。ジョージアからはイスタンブールに向けて再び船に積まれる。

・ジョージア経済・持続的發展省によれば、このルートによる約 15 日間の日程は、これまでの海上ルートに比べ 25 日ほど短い。2016 年にバクー・トビリシ・カルス鉄道が完成すれば、ルートの効率性は更に高まる。